

ISO14001の概要

(株)マネジメントセンター

3-03(070809)

(1) ISO14001について

(2) 規格要求事項と審査

(3) 認証取得のポイント

(1) 14001について

日本産業の将来(建設業の例)

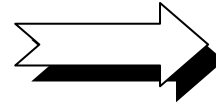
2001年

1. 建設需要

70兆円 / 年

(1) 民間 35兆円 / 年

(2) 公共 35兆円 / 年



2010年

60兆円 / 年

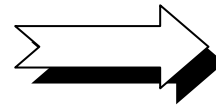
(1) 民間 40兆円 / 年

(2) 公共 20兆円 / 年

2. 建設業者数

58万社

(実質8割赤字)



40万社

3. 1社あたり受注額

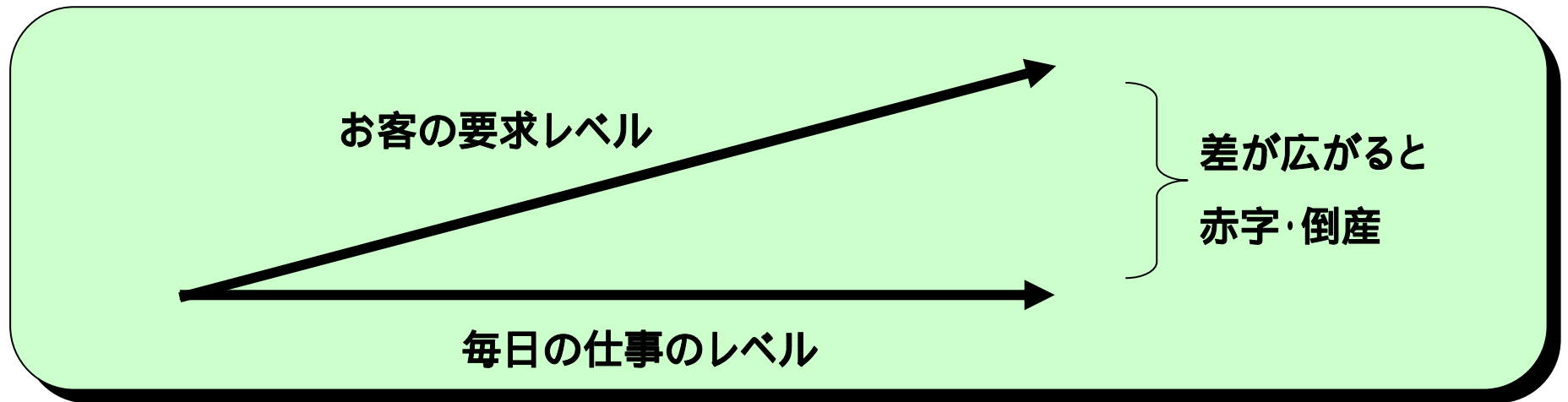
1.2億円 / 年



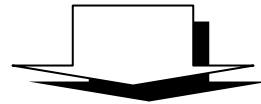
1.5億円 / 年

存続・成長が重要(二極化)

企業が生き残るには



日常の仕事に追われて、同じ仕事の繰り返し



常に仕事のレベルアップが必要 継続的改善



国際規格の力を利用して、経営革新 ISOの認証

消費型社会 から

環境問題は地球規模に拡大

大気
水質
土壌

汚染



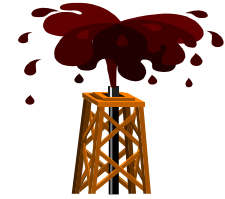
オゾン層破壊



酸性雨



資源枯渇



温暖化



廃棄物



公害は地域的問題が端緒

汚染の防止
環境保全
自主的な改善
法規制を守る

循環型社会 へ

主な環境問題の概要

環境問題	問題、影響の概要	対策の例
酸性雨	<ul style="list-style-type: none">・車などから大気に排出されるNO_x、SO_x・森林が枯れ、湖の生物が死滅	NO _x 、SO _x の抑制 使用燃料の削減 石油燃料の置き換え
温暖化	<ul style="list-style-type: none">・CO₂の排出などによる温度上昇・極地の溶氷により海面上昇、水没	CO ₂ の抑制 大気への放出抑制 電気の削減 代替エネルギー
オゾン層の破壊	<ul style="list-style-type: none">・フロン類の大気放出によるオゾン層破壊・紫外線照射による皮膚ガン	フロン類の禁止 用済みフロンの回収

主な環境問題の概要

環境問題

問題、影響の概要

対策の例

環境ホルモン

- ・PC、エポキシ樹脂食器に含まれるビスフェノールAなどの溶出
- ・内分泌かく乱物質が細胞、組織に種々の生理作用を引き起こす

安全性の評価
材料の代替え

廃棄物

- ・廃棄物処理能力の限界
- ・資源の枯渇

3Rの実施
リデュース(減らす)
リユース(再使用)
リサイクル(再資源)

ダイオキシン

- ・プラスチック焼却のダイオキシン発生
- ・人体への危害

適正な廃棄処理
焼却場の能力向上
塩ビ系ゴミの抑制

リサイクル関連の法規制

循環法（循環型社会形成推進基本法）

資源有効利用促進法

自動車等の部品再利用、家電の省資源

容器包装リサイクル法

プラスチック、紙等の容器再資源化

家電リサイクル法

メーカーに4品目の再資源化義務

建設資材リサイクル法

解体業者に木材、鋼材の再利用義務

食品リサイクル法

食品廃棄物に対する削減と再資源化

グリーン購入法

国・県・市町村が環境企業に優先して発注

企業を選択する基準

品質

コスト

+

環境

企業の環境

大企業から中小企業へ取得の要請が急激に増加
公共事業発注時の条件とする自治体が増加
企業のイメージアップで営業効果を狙う企業が増える

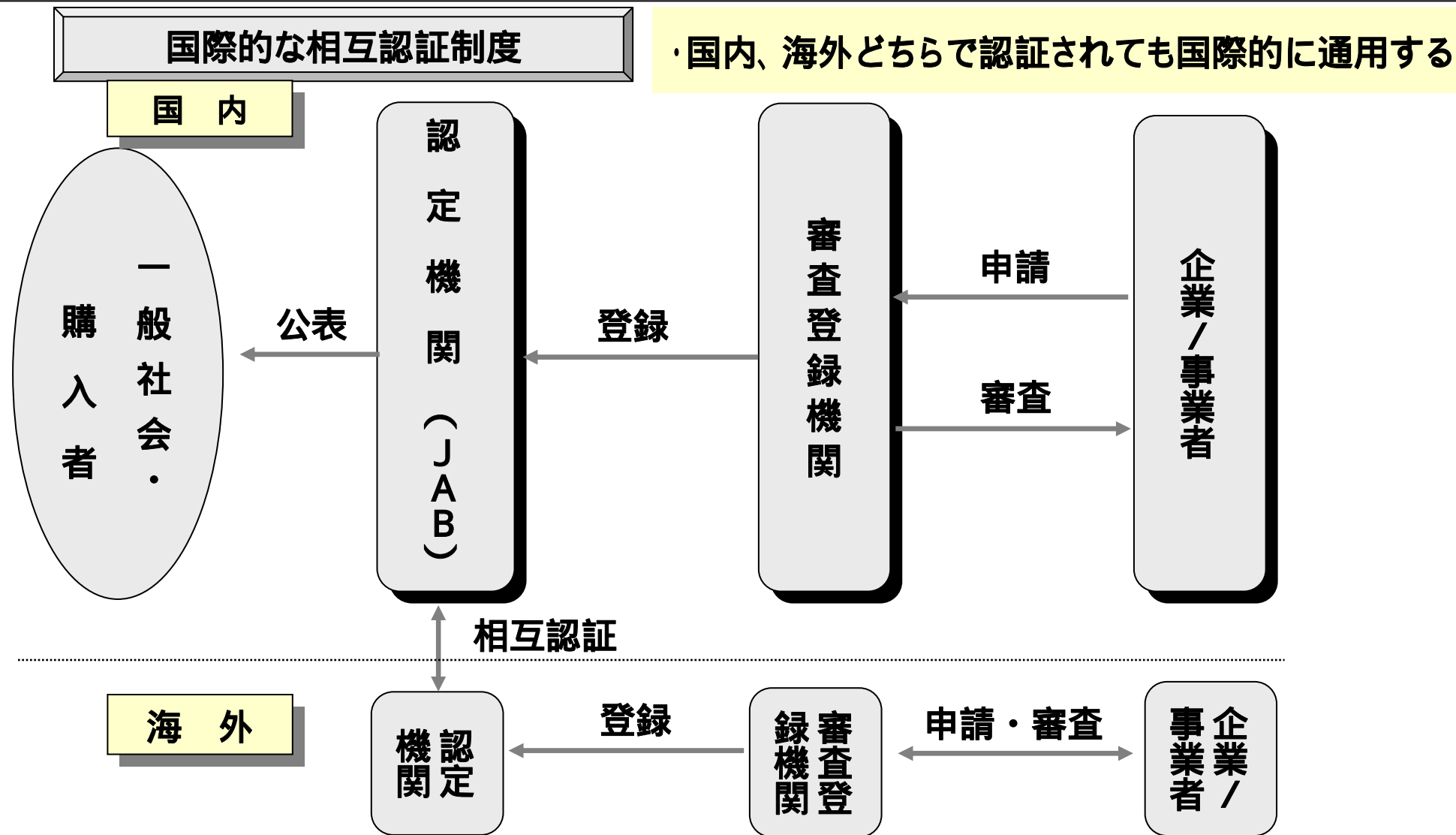
取得の動機

取引先から、環境システムの確立を要請される
消費者の意識が環境にやさしい企業を選択する傾向が大きい
法規制で環境関連の規則がどんどん厳しくなり対応必要

企業としての効果

取引上の優位性確保 … 一般消費者や取引先からの信頼感
利益の創出 … 原材料・廃棄物やエネルギーの削減で確保
業務の効率化 … 仕事の仕組みと社員の教育・訓練の効果

ISOの審査登録認定制度

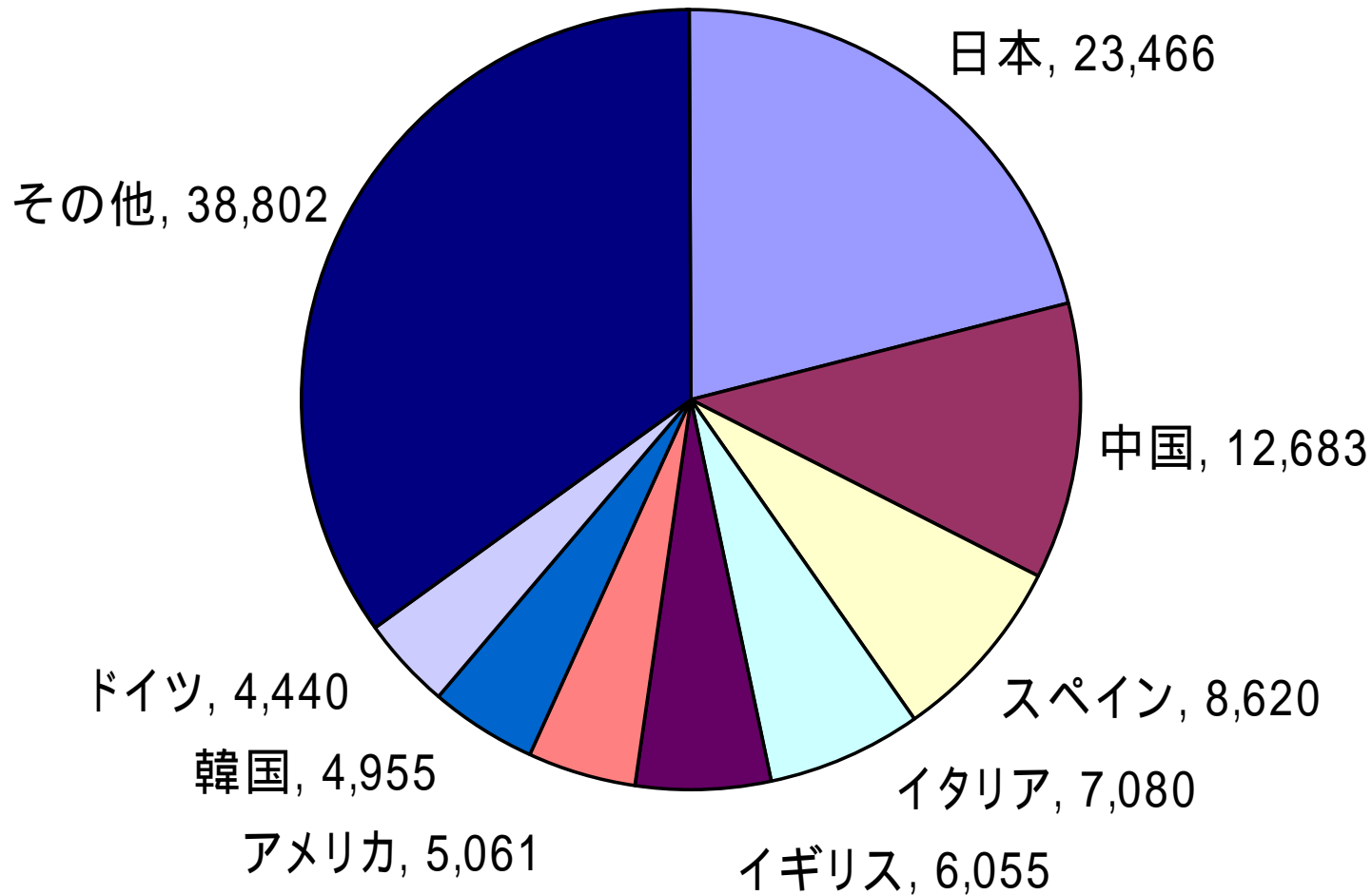


各国の審査登録
機関の認定機関

国名	機関名	設立年	国名	機関名	設立年
オランダ	RvC	1981年	アメリカ	RAB	1991年
イギリス	UKAS	1984年	カナダ	SCC	1991年
フランス	AFAQ	1988年	オーストラリア	JAS - ANZ	1991年
ドイツ	TGA	1991年	日本	JAB	1993年

ISO14000 世界各国の取得状況

世界のISO14001 認証取得件数の推移

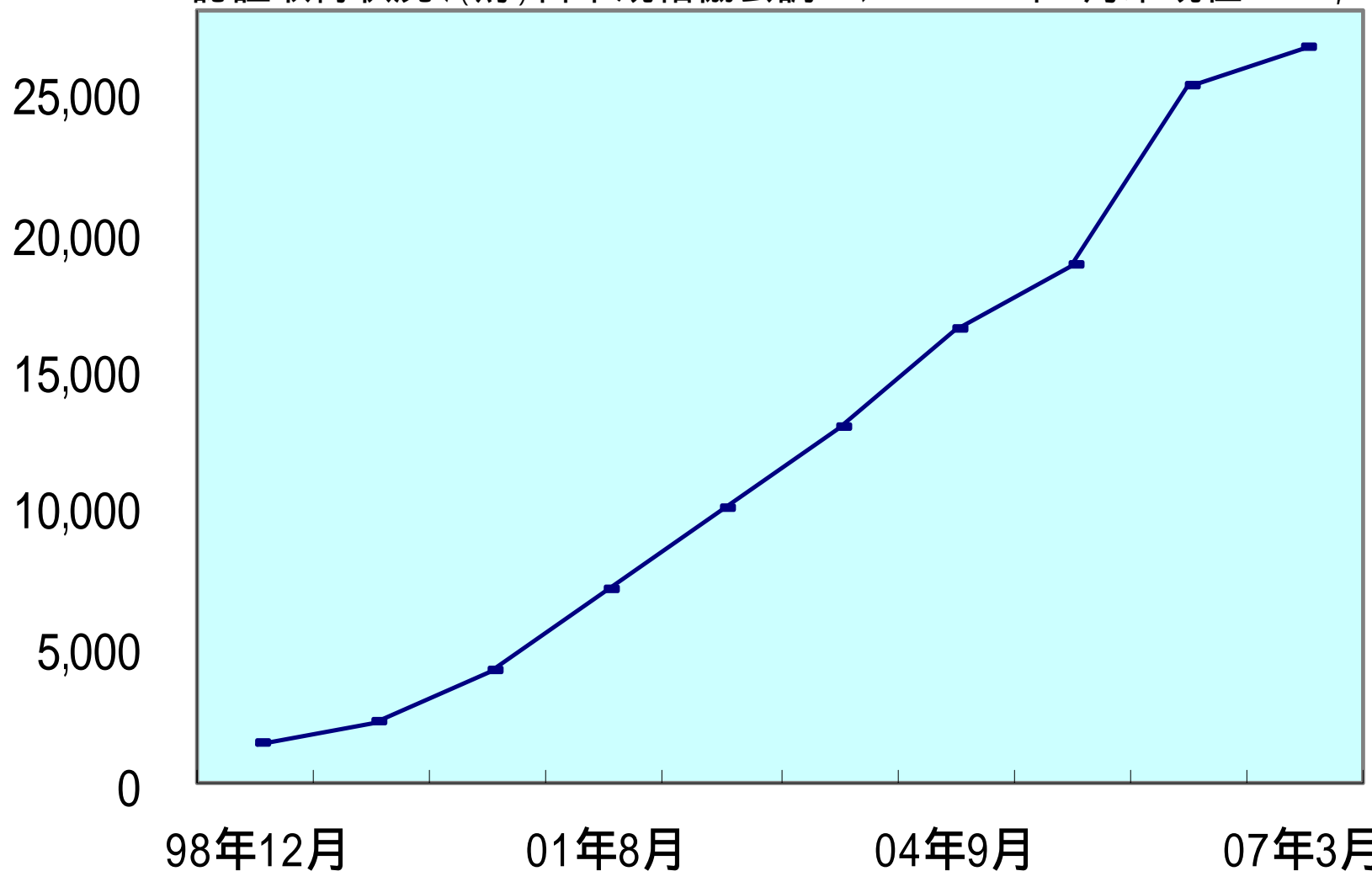


2005年12月末で世界では11万件登録

世界的に認証取得は急増している

ISO 14000国内の取得状況

ISO 14000 認証取得状況〔(財)日本規格協会調べ〕 2007年3月末現在 26,622件

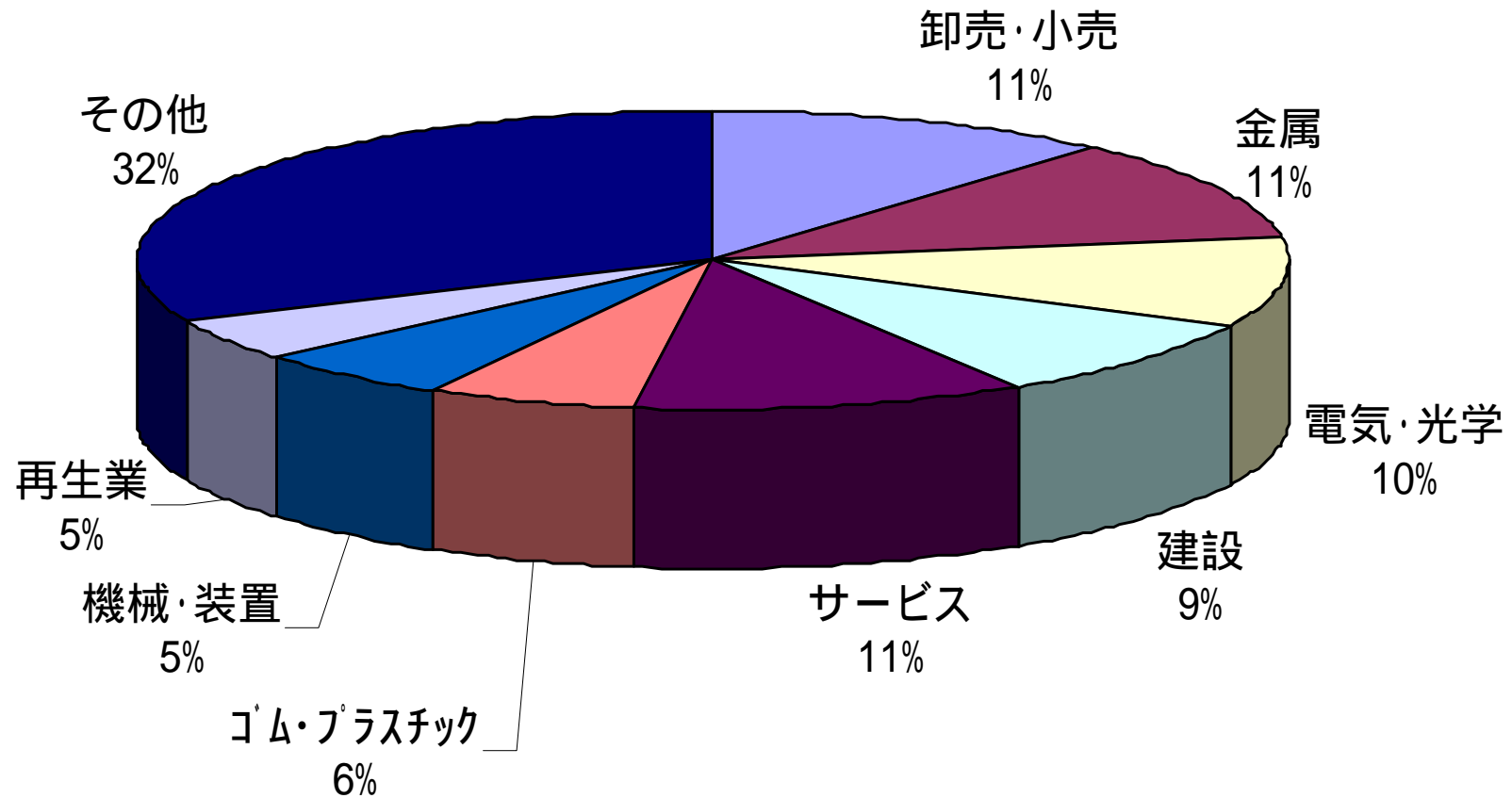


2007年3月に26,622件となった

認証取得はあらゆる業種、行政に拡大（新潟県 上越市等）

日本を支える中小企業の取得、環境改善に期待

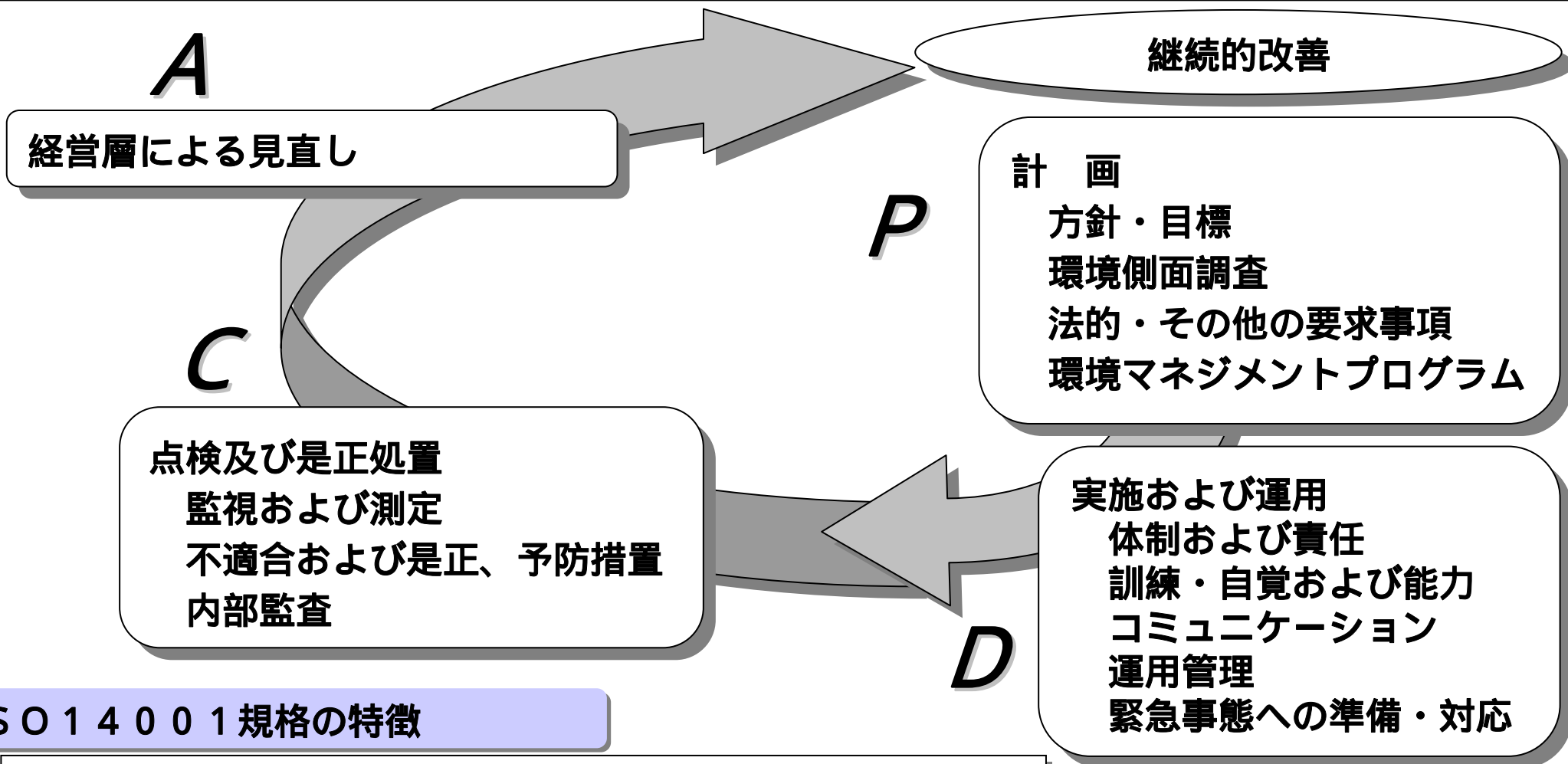
ISO14000国内の取得状況



J A B 2007.3月発表

(2) 規格要求事項と審査

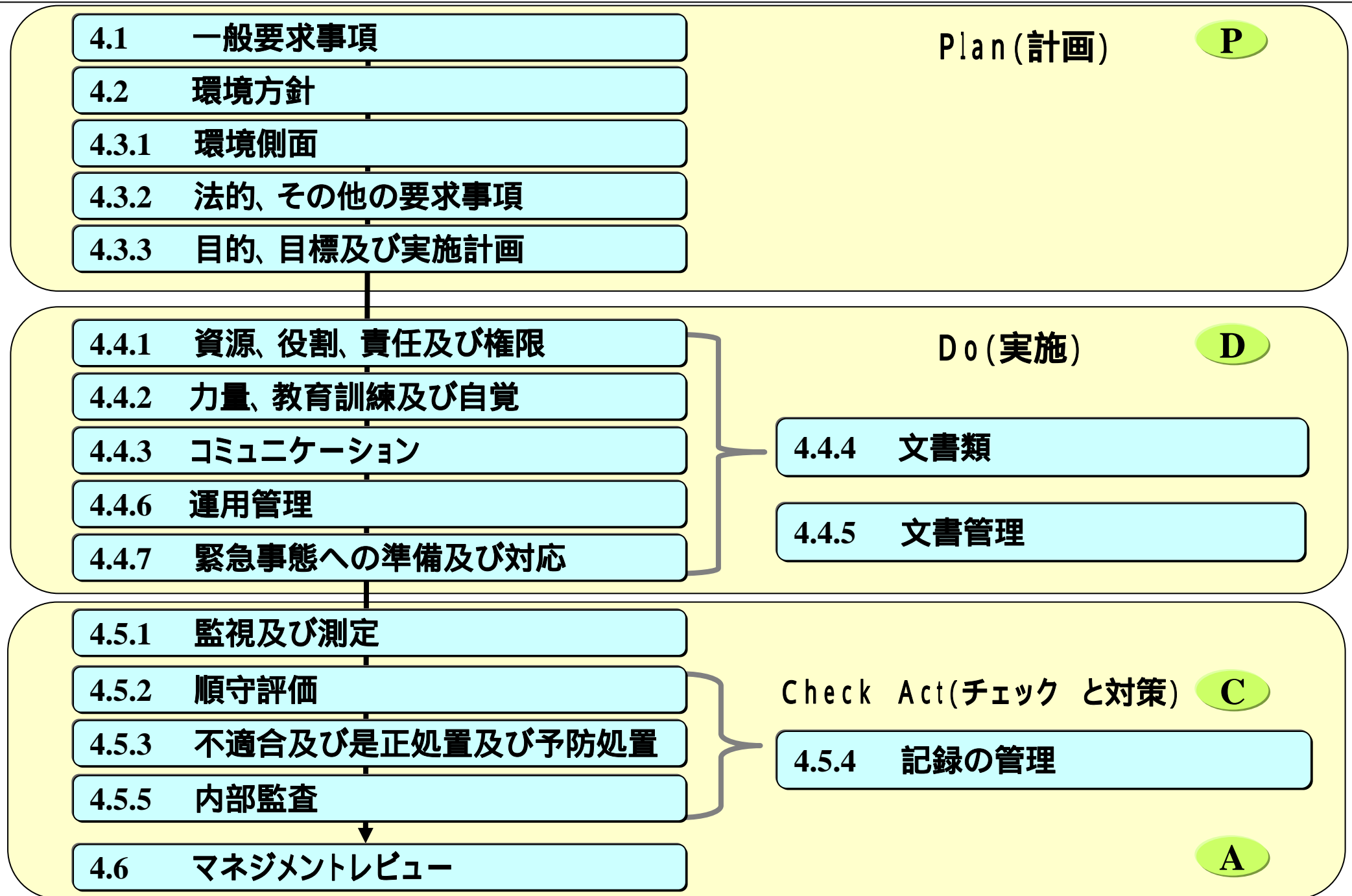
(1) ISO 14001のマネジメントサイクル



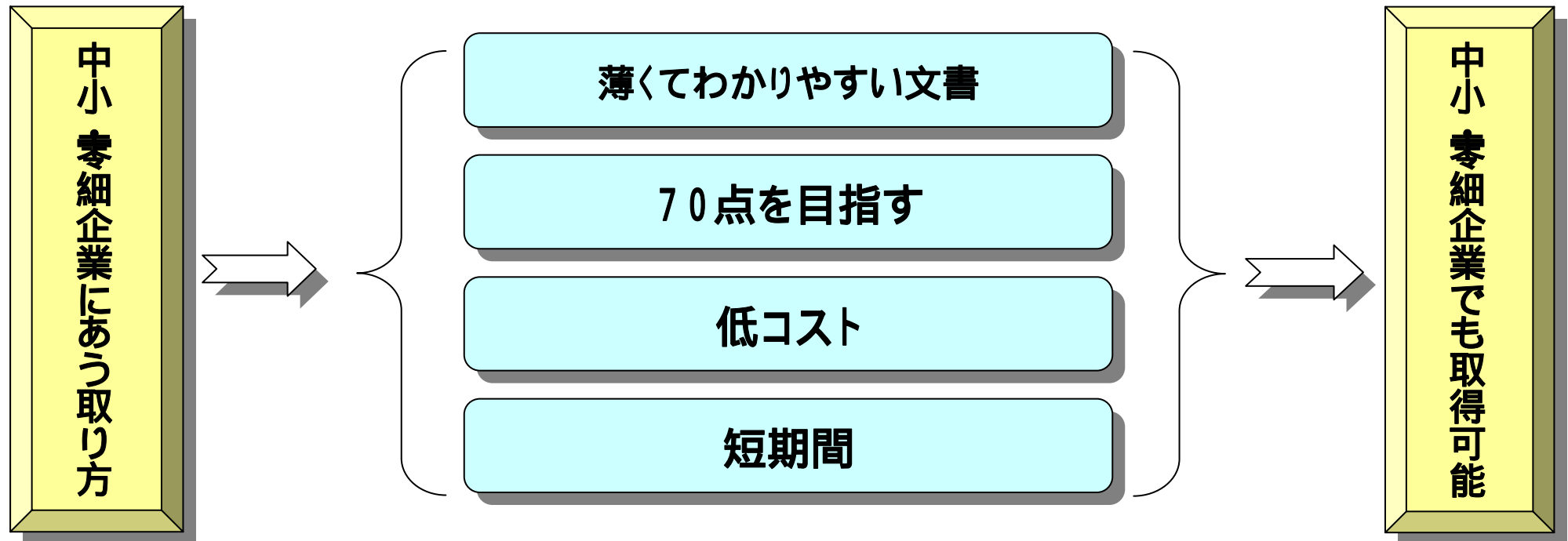
ISO 14001規格の特徴

継続的な環境保全、環境改善を目指す
PDCAのサイクルを回す環境マネジメントシステム
社会の要請と広範囲の利害関係者のニーズに応える
経営トップがマネジメントを行う
環境方針を公開し、方針に応じたプログラムを展開する

(2) ISO 14001規格の要求事項



中小・零細企業におけるISOの成功法



(1) 認証取得の目的を明確にしてから取り組む

(2) 経営戦略として、経営者が先頭になって取り組む

(3) 会社の生き残り・成長の有効な武器として活用

(4) 普段の仕事を基本に、無理のない仕組みを作る

(5) 従業員に必要性を理解させ、一丸となって取り組む

(6) 審査と規格のポイントを押さえて効率的に取得する